

2016年度 事業計画

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ類部会

シギ・チドリ類支援のためのアンブレラ組織 Shorebird Stepping Stones の一環として、シギ・チドリ類／ヘラシギの保全と啓発の活動を行う。今年度は経団連自然保護基金の助成金を利用し、条約湿地のある荒尾市役所と共催するシンポジウムの開催（2017/2/4～5）に焦点を当て、準備、その他の活動を行う。

*予算：102万円

(2) 保全・再生事業

●沖縄の生物多様性

①「沖縄問題（特に辺野古新基地建設、泡瀬干潟等の埋立、高江ヘリパット建設など）に関するラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ」を総会で決議し、それを公表し、諸団体に郵送するとともに、様々な集会で活用していきたい。②第二次泡瀬干潟訴訟は、今秋にも判決が予定されている。勝利に向けての取り組みも進めたい。③泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録を 2018 年ドバイの COP13 で実現させる取り組みの強化。

*予算：10万円

●田んぼ 10 年プロジェクト

参加者の更なる増加をめざす。水田部会（ラムネット J）と水田決議円卓会議準備会議を定期開催する。地域交流会を 2 回、全国大会を 1 回開催し、ICEBA2016 で分科会を開催する。CBD SBSTTA20、SBI1（モンテリオール、4～5 月）及び CBD/COP13（カンクン、12 月）で、田んぼ 10 年プロジェクトを、農林漁業での生物多様性の主流化に関する成功事例として国際的に発信し、国際的なネットワークの充実をめざす。メーリングリストの運営、「田んぼ 10 年だより」発刊、及び専用のホームページを立ち上げ、ポスター、冊子等の啓発普及に役立つツールを積極的に作成、使用する。

*予算：450万円

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

2015 年までの 40～50 以上のイベント参加数を取り戻すために、2017 以降は担当者が交代し、地域の人々が必要とする新しいアイデアを活動に組み込むこと、助成金を獲得し報告会や展示活動を再開すること、インターネットを通じて活発なコミュニケーションを図ることとする。新しい担当者を交えて参加者へのアンケートを実施し、結果をもとに 2017 年以降の計画を立てる。

*予算：20万円

(4) 国際協力事業

●日韓湿地 NGO フォーラム・世界湿地ネットワーク (WWN) 他

自然保護助成基金の支援を受けた「地域 NGO の国際条約への貢献」に関するプロジェクトとして、第 11 回日韓湿地 NGO フォーラムと併せ、地域 NGO のラムサール条約への関わりを考えるワークショップを韓国 NGO と協力して開催。日韓 NGO を中心として、中期的には世界湿地ネットワークの持ってきた役割を確保し、長期的には地域住民・地域 NGO による条約の充実を目指す。

*予算：250 万円

(5) エコトーン事業

2016 年度のエコトーン・プロジェクトは、引き続き一般社団法人環境パートナーシップ会議 (EPC) と共同実施し、EPC が HSBC から受けた寄付によって計 16 か所の湿地保全団体を支援し、5 月には豊岡市でのサイトビジットを行い、HSBC 職員を現地に案内して、保全作業に従事してもらう予定である。

*予算：240 万円

(6) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

昨年度と同様に、2016 年度も 4 回程度 (7 月初旬、10 月初旬、1 月初旬、3 月末 (4 月 1 日付け)) 発行する。

*予算：20 万円